

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第5週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,568人(定点あたり42.9)で、前週比93%と減少した。

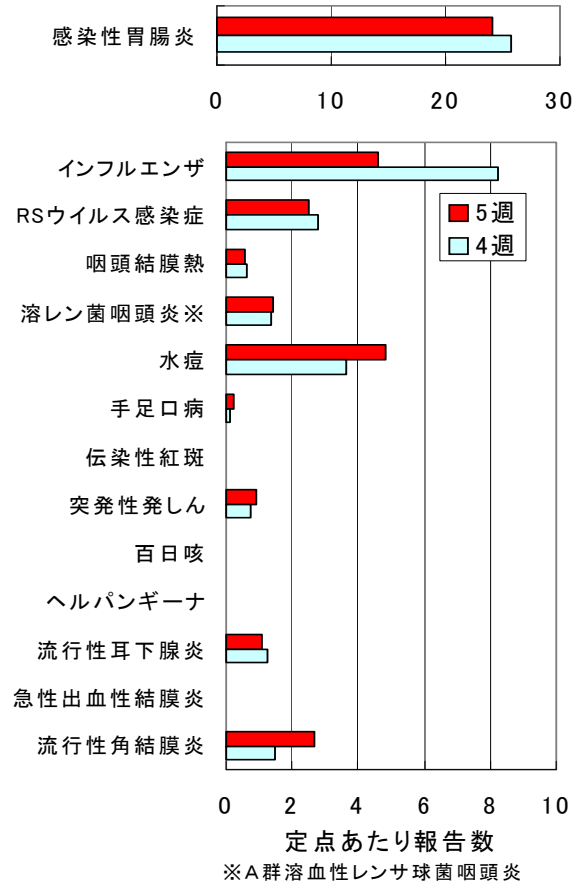
前週に比べ増加した主な疾患は水痘で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

水痘の報告数は174人(4.8)で前週比134%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(4.3)の約1.1倍と多い。都城(12.2)・延岡(6.5)・日南(5.0)保健所からの報告が多く、都城保健所管内では警報レベルを超えている。年齢別では1歳から4歳で全体の約8割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は865人(24.0)で前週比94%と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値(14.3)の約1.7倍と多い。小林(40.0)・日南(37.3)・中央(30.3)・都城(29.5)・宮崎市(23.0)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から5歳で全体の約5割を占めた。

インフルエンザの報告数は270人(4.6)で前週比55%と減少した。小林(9.6)・日南(7.2)・都城(5.9)保健所からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の37%、6-9歳が21%、10-14歳が16%、15-19歳が7%、20歳代-50歳代が17%、60歳以上が2%を占めた。

《前週との比較》



■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	24.0	小林(40.0)、日南(37.3)、 中央(30.0)、都城(29.5)、 宮崎市(23.0)	1歳から5歳で全体の約5割を占めた。
水痘	7	4.8	都城(12.2)	1歳から4歳で全体の約8割を占めた。

■ 病原体情報 (衛生環境研究所 微生物部)

□ 細菌 (平成22年2月9日までに分離同定)

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日	衛研番号
<i>Salmonella choleraesuis</i> (O7:c:1,5)	80代前半	女	1.27		腹部大動脈瘤破裂患者 手術中の組織片	2.9	10004

□ ウイルス

報告なし。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 2 例が宮崎市、高鍋 (各 1 例) 保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・70 歳代の女性で疑似症患者。発熱がみられた。
《高鍋保健所》・70 歳代の男性で肺結核。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 全国第 4 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 27.4 で、前週比 94%と減少した。今週増加した主な疾患は RS ウイルス感染症で、減少した疾患はインフルエンザと水痘であった。

RS ウイルス感染症の報告数は 4,742 人 (1.6) で、前週比 120%と増加した。例年同時期に比べても約 2.7 倍と多くなっている。徳島県 (6.7)、香川県、大分県 (4.5) からの報告が多く、年齢別では 0 歳から 2 歳までが全体の約 8 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 43,403 人 (14.3) で、前週比 104%とほぼ横ばいであったが、例年同時期の 1.7 倍と多くなっている。愛媛県 (26.4)、宮崎県 (25.7)、鹿児島県 (21.6) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳で全体の約 5 割を占めた。

インフルエンザの報告数は 31,049 人 (6.5) で、前週比 72%と減少した。沖縄県 (18.9)、山梨県 (14.1)、福井県 (13.4) からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 27%、6-9 歳が 25%、10-14 歳が 19%、15-19 歳が 7%、20 歳代から 50 歳代が 21%、60 歳以上が 1%を占めた。

□全数把握対象疾患

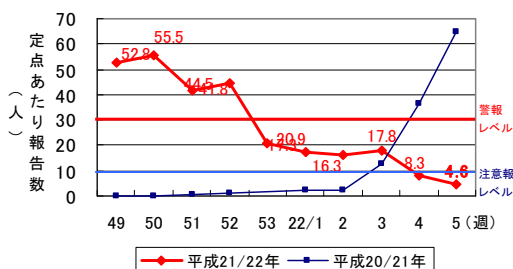
- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 244 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 3 例、腸管出血性大腸菌感染症 19 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、A 型肝炎 2 例、つつが虫病 6 例、テング熱 2 例、日本紅斑熱 1 例、マラリア 1 例、類鼻疽 1 例、レジオネラ症 9 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 12 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 4 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 8 例、梅毒 12 例、風しん 1 例、麻しん 5 例

■ インフルエンザ情報《県内第5週、全国第4週（再掲）》

□ 県内第5週インフルエンザ発生動向

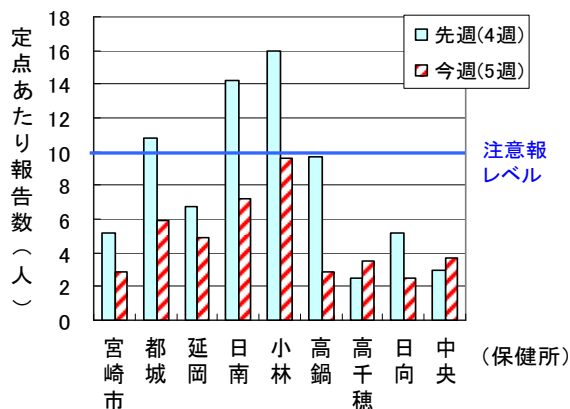
平成22年2月1日～2月7日までの1週間で270人（定点あたり4.6）の報告があり、前週比55%と減少した（図1）。小林（9.6）・日南（7.2）・都城（5.9）保健所からの報告数が多く（図2）、年齢別では5歳以下が全体の37%、6-9歳が21%、10-14歳が16%、15-19歳が7%、20歳代-50歳代が17%、60歳以上が2%を占めた（図3）。

（図1）インフルエンザ週別発生状況（過去10週）

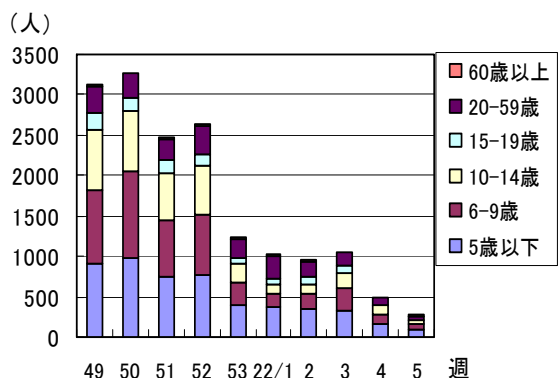


		第5週 (2/1～2/7)	累計 (21/30～22/5週)
集団発生件数		0	429
遺伝子検査陽性件数		1	409
型別	AH1亜型(ソ連型)	0	0
	AH3亜型(香港型)	0	2
	AH1pdm(新型)	1	407
入院患者数		2	253
重症患者数		0	15
死亡者数		0	4

（図2）インフルエンザ保健所別報告数



（図3）インフルエンザ報告数 年齢別割合の推移



インフルエンザ 警報・注意報レベル状況

インフルエンザの定点あたり報告数と警報・注意報レベル発生状況

○: 警報レベル、△: 注意報レベル、- 警報・注意報レベルなし

保健所	今週 (5週)		1週前 (4週)		2週前 (3週)		3週前 (2週)		4週前 (1週)		5週前 (53週)	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
宮崎市	2.9	-	5.2	-	14.3	△	12.1	△	11.9	△	15.7	△
都城	5.9	-	10.8	△	19.9	△	21.3	△	19.9	△	33.9	○
延岡	4.9	-	6.7	-	13.4	△	19.7	△	22.7	△	21.3	△
日南	7.2	-	14.2	△	24.2	△	15.4	△	18.4	△	27.2	△
小林	9.6	-	16.0	△	28.8	△	23.6	△	35.8	○	29.4	△
高鍋	2.8	-	9.7	-	21.3	△	13.0	△	9.2	-	18.3	△
高千穂	3.5	-	2.5	-	6.5	-	13.5	△	16.0	△	23.0	△
日向	2.5	-	5.2	-	14.7	△	14.0	△	14.3	△	9.3	-
中央	3.7	-	3.0	-	16.0	△	15.0	△	14.3	△	5.0	-

□ 全国第4週インフルエンザ発生動向

平成22年1月25日～1月31日までの1週間で31,049人（6.5）の報告があり、前週比72%と減少した。沖縄県（18.9）、山梨県（14.1）、福井県（13.4）からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の27%、6-9歳が25%、10-14歳が19%、15-19歳が7%、20歳代から50歳代が21%、60歳以上が1%を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第05週(02月01日～01月07日)

疾病名		第4週	第5週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	487	270	43	59	34	36	48	17	7	15	11
	定点あたり	8.25	4.58	2.87	5.90	4.86	7.20	9.60	2.83	3.50	2.50	3.67
RSウイルス 感染症	報告数	100	89	17	1	25	9		18	3	14	2
	定点あたり	2.78	2.47	1.89	0.17	6.25	3.00	0.00	4.50	3.00	3.50	1.00
咽頭結膜熱	報告数	22	20	4	5	5	2				4	
	定点あたり	0.61	0.56	0.44	0.83	1.25	0.67	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	49	52	9	5	12	5	2	2	2	5	10
	定点あたり	1.36	1.44	1.00	0.83	3.00	1.67	0.67	0.50	2.00	1.25	5.00
感染性胃腸炎	報告数	925	865	207	177	54	112	120	75	11	49	60
	定点あたり	25.69	24.03	23.00	29.50	13.50	37.33	40.00	18.75	11.00	12.25	30.00
水痘	報告数	130	174	28	73	26	15		8		19	5
	定点あたり	3.61	4.83	3.11	12.17	6.50	5.00	0.00	2.00	0.00	4.75	2.50
手足口病	報告数	5	9	4	1						4	
	定点あたり	0.14	0.25	0.44	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	0										
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	26	33	7	7	6	2	3	4		4	
	定点あたり	0.72	0.92	0.78	1.17	1.50	0.67	1.00	1.00	0.00	1.00	0.00
百日咳	報告数		2			2						
	定点あたり	0.00	0.06	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	45	38	3	5	15					14	1
	定点あたり	1.25	1.06	0.33	0.83	3.75	0.00	0.00	0.00	0.00	3.50	0.50
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	9	16	12	4							
	定点あたり	1.50	2.67	4.00	2.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～5週)

2類感染症	結核	17例(2)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例			
5類感染症	急性脳炎	2例	後天性免疫不全症候群	1例	梅毒
	麻しん	1例			2例

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）に感染しないために。（2月1日～2月7日）

嘔吐下痢症の原因となるウイルスのひとつにノロウイルスがあります。感染力が非常に強く、ごく少量のウイルスでも口から体内に入ることによって感染します。特に乳幼児や高齢者は、症状が重くなることがあります。

感染を予防するためには、石けんと流水による手洗いが最も重要です。おむつ交換や嘔吐物の処理をした後、トイレの後、調理や食事の前には石けんで手を洗いましょう。タオル等から感染が広がることもあるので、タオルの共有はやめましょう。

嘔吐物や便を処理するときには、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、汚物はできるだけペーパータオル等を利用して拭き取りましょう。汚れた床や畳なども漂白剤を染み込ませたペーパータオル等で拭きましょう。

水ぼうそうは都城市周辺からの報告が多く、警報レベルを超えています。1歳から4歳のこどもたちが多く感染しています。

長く続いたインフルエンザ警報は解除されましたが、まだしばらく注意が必要です。手洗い、うがいの徹底など、引き続き感染予防に努めましょう。